

教育環境整備の検討について（田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会）

田浦地域における課題
1 両小学校ともに小規模化が進み、令和4年度現在全学年が単学級となっていて、今後も児童数の減少が見込まれる。
2 田浦小学校については、校舎の築年数が69年（市内で最も古い）を経過し、建て替えの時期を迎えているが、防災面や周辺道路の状況から様々な課題があり、規模の適正化と合わせて検討する必要がある。
3 船越小学校については、建物の一部がレッドゾーンに該当していることや校地面積が狭いことから、将来の建て替えの際には考慮が必要である。

案	案の考え方	案に対する検討事項等
案1（事務局提案） 田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する	田浦小学校の小規模化と老朽化、長浦小の小規模化を踏まえ、田浦小学校区を長浦小学校区へ編入する。	○通学路 ・田浦小学校区では概ね最大1.2キロ程度だった通学路が、最大3キロとなる。 ・国道を通学路として想定した場合、最大3つのトンネルを利用する。各トンネルの歩道が狭く通学以外の利用も多く防犯も含めた安全性に不安がある。また、トンネルの老朽化にも不安がある。 ○地域 ・田浦小学校が廃止した場合の広域避難地の取り扱いをどうするのか。 ○その他 ・地域の学校がなくなることに対する心情的なサポートが必要。
案1（参考）（事務局提案） 港が丘1丁目を除く田浦小学校区を長浦小学校区に編入し、港が丘1丁目を船越小学校に編入する	船越小学校の方が近い港が丘1丁目を船越小学校に編入することで、港が丘1丁目の通学距離を軽減することができる。	○通学路 ・港が丘1丁目の通学距離は軽減できるものの、田浦小学校区では概ね最大1.2キロ程度だった通学路が、最大3キロとなる。 ・国道を通学路として想定した場合、最大3つのトンネルを利用する。各トンネルの歩道が狭く通学以外の利用も多く防犯も含めた安全性に不安がある。また、トンネルの老朽化にも不安がある。 ○地域 ・田浦小学校を廃止した場合の広域避難地の取り扱いをどうするのか。 ・田浦連合町内会に属する湘南港が丘自治会の全体が船越小学校区となる。（湘南港が丘自治会以外の田浦連合町内会は全て田浦小学校区）
案2（委員意見） 長浦小学校に中学校を併設する。また田浦中に小学校を併設する。	船越小学校を含め田浦地域の小規模が進むのであれば、船越小学校を含む田浦地域での整理が必要。また、現在でも田浦中学校への通学距離が長いいため、田浦中学校、長浦小学校にそれぞれ、小中学校を併設してはどうか。	○ハード面 単純計算では長浦小学校の現校庭に中学校を併設することは困難。また、田浦中学校の現校庭に小学校を併設することは、シミュレーションとしては範囲内ではあるが、国の校庭基準並みの小学校となるため実現するためには、工夫が必要である。 ○その他 （仮称）長浦中学校を新たに開設する場合に、開設時から小規模となるため、逸見小学校区、沢山小学校区を編入するなどの対策が必要。（その場合には坂本中学校区への小規模化等の影響がある）
案3（委員意見） 田浦小学校を現地で建て替えする。	歴史ある学校で、地域住民の多くが卒業生であり、田浦小学校を廃止するのではなく、規模を縮小するなどの措置をとった上で建て替えしてはどうか。	○建て替えは困難 ・敷地が狭い。（レッドゾーン、擁壁、セットバック） ・建て替え期間中の授業・行事ができない。